

将来の学校のあり方について

1 学校施設の今日的な課題

(1) 安全・快適な学校施設的环境向上

- ・ 建築年度が古く校舎等が老朽化しており、修繕等を必要とする箇所が多くなっている。
- ・ 児童生徒が安全かつ快適に学ぶことができる教育環境の充実を図る必要がある。
- ・ 習熟度別指導や少人数指導、特別支援教育等、児童・生徒一人ひとりの教育的なニーズに応えることができる施設整備を行う必要がある。

(2) 児童・生徒の減少に伴う適正な学校の再編

- ・ 人口減少、少子化の一層の進行により、児童生徒数は年々減少している。
- ・ 学校教育において、一定の集団規模が確保されていることが望ましいとされる一方、小規模校としてのメリットもあり、少子化に対応した活力ある学校づくりや児童生徒にとって望ましい学校規模を検討する必要がある。

(3) 社会の変化に対応した教育機器・教材の拡充

- ・ グローバル化の進展により、社会全体が急速に変化している。情報化社会に対応したデジタル教材の活用や情報教育を推進するためのICT環境の充実、社会状況の変化や多様な学習活動に対応した教材の整備など、児童生徒の学習能力の向上のための教育環境の充実を図る必要がある。

(4) 生活空間としての施設の充実

- ・ 学校施設は、教育の場としてだけでなく、生活の場として充実した学校生活を過ごすことができる豊かで潤いのある空間である必要があり、バリアフリー化や防犯対策、エアコンやトイレなど衛生的な環境整備も図る必要がある。

(5) 地域コミュニティ施設としての活用

- ・ 小中学校は、学校と地域との連携による多様な交流の場や放課後学童保育としての活用、災害時の避難場所として指定されている。
- ・ 地域コミュニティとしての多様な機能に対応できる施設や設備の整備が必要である。

2 学校施設の目指すところ(学校施設の整備目標)

- (1) 安全性
- (2) 快適性
- (3) 学習活動への適応性
- (4) 環境への適応性
- (5) 地域の拠点化

3 教育環境の改善による理想的な学校教育の目指すところ(学校教育の実現)

- (1) 確かな学力の育成
- (2) 豊かな心の育成
- (3) 健やかな体の育成
- (4) 特別支援教育の充実
- (5) 信頼される学校づくり



学校施設の老朽化、児童生徒の減少、ICT教育や英語教育など教育内容の多様化や新型コロナウイルス感染症などの環境の変化等、さまざまなニーズに対応できる充実した新しい学校施設が必要 ⇒ 学校再編の必要性

学校施設再編基本計画策定委員会では・・・

学校施設の現在、そして将来(20年後)の子どもたちが学び、生活する教育環境の充実と地域コミュニティの核としての役割、機能の充実に向けた方向性を検討する。



学校施設再編基本計画（学校施設整備方針）

4 学校施設再編基本計画策定に向けた基本的な考え（学校施設整備方針）

(1) 地域の実情に適した将来に渡って持続可能な学校規模

適正規模校または大規模校の設置や維持を念頭にしながらも、地域の実情に合わせた望ましい学校規模を将来にわたって持続させることができるよう検討を行う。

(2) 地域の実情に適した学校施設の配置

児童生徒や保護者の負担が大きくなるように、通学区域が広がる場合には、通学の安全確保及び負担軽減に配慮し、通学バスの導入や自転車通学の適用拡大を検討する。

(3) 地域コミュニティの核としての施設の充実

既存の複合施設である放課後児童クラブやまちづくり協議会が学校再編を原因にその規模や活動範囲が縮小されることがないように最大限の配慮を講じるとともに、災害時の避難場所としての役割を重視した検討を行う。

また、学校跡地の有効活用についても検討を行う。

(4) 多様なニーズに対応できる施設の充実

市全体の子どものための教育環境の向上、生活環境の向上に努める。



まちのシンボルとなる新しい学校施設、

地域コミュニティとしての施設の充実をめざす